

平成 28 年度 西田原保育園・桔梗が丘保育園の自己評価について

「保育所保育指針」において、保育所は、保育の目標を達成するために、保育課程及び指導計画に基づく保育実践を振り返り、その専門性の向上や保育実践の改善に努めるために自己評価を実施すると共に、その結果の公表を努力義務としています。

これを受け、本年度は、平成 27 年度の自己評価結果を踏まえ、『子どもの発達理解』に特化して自己評価を行いましたので、その結果を公表します。

今後は、平成 30 年の保育指針の改定も視野に入れ、自己評価の在り方を再検討し、さらに質の高い豊かな保育実践につながるよう取り組みを進めてまいります。

【評価対象者】 園長・保育士全員（含保育教諭）

《 西田原保育園 》

○ 評価結果 (5 点満点)

項目	評価
子どもの発達	3.42
特別支援教育・障害児保育	3.25

○ 振り返りによる今後の課題等

2 年目の自己評価となりましたが、職員がこの目的を理解することについては、さらなる対応の必要があったと言えます。

園として、組織の一員として、各自の存在意義や保育者としての保育課題の共有機会等について、それぞれが自主的にどのように活かそうとしていたのかが、反省点となりました。

今後は、自己評価の実施方法について、両園が一体となって検討し、実施時期を指導計画作成期と整合させる考慮や園内研修と連動させる等、保育者一人ひとりの主体性が期待できるよう工夫をしての取り組みが必須であると考えます。

評価項目の決定についても、保育士自らが、おかれている環境を理解して、園独自での項目設定等も検討し、その結果ができるだけ早く、確実に保育の質の向上に結びつくよう取り組んでまいります。

《 桔梗が丘保育園 》

○ 評価結果 (5点満点)

項目	評価
子どもの発達	3.74
特別支援教育・障害児保育	2.94

○ 振り返りによる今後の課題等

職員の立場に関わらず、それぞれの子どもを共通理解して関りが持てるよう、園内職員による公開保育を企画するとともに、事例検討会や定期的なスキルアップ研修会などを実施しました。

これらの取り組みをとおり、子どもの理解を深めるために、日々の保育について振りかえる機会を多く持つようにしました。発達の気になる子や障がいのある子どもへの個別支援については、専門機関との連携を密にし、助言を受けているものの、担任や担当職員以外の保育士等の知識や共通認識は、昨年同様弱さが見られました。

子どもの発達の連続性に配慮した保育、個人の育ちを大切に『共に育つ』集団づくりという観点のもと、大規模園にふさわしい職員体制の強化を図らねばなりません。今後はさらに、職員間の連携を徹底するとともに、職員が研修機会を主体的に捉えて受講し、園内共有によりこれを活かし、保育の質の向上につながるよう努めます。